参考資料としての学習指導要領における体育科学習内容の位置づけに関する検討

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2015-09-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 今関, 豊一
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003249

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　ス乙第 14 号

参考資料としての学習指導要領における体育科学習内容の位置づけに関する検討

(Examination about the positioning of the physical education learning contents in the course of study as reference materials)

今関　豊一（いまぜき　とよかず）

博士（スポーツ健康科学）

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴･独創性･論理性】
教科としての体育科に問われる意義や背景を踏まえつつ、学習内容の視点から研究を構想し、学習指導要領の改訂の経緯と課題を先行研究のレビューにより明らかにしている。学習内容の視点での学習指導要領の検討は、体育科教育研究においては他に類がなく独創性がある。

【研究方法の妥当性】
文献研究により、研究対象とした戦後草創期の学習指導要領および当時の関連する専門書籍を網羅して検討する方法論を用い、また、体育科のもつ学習内容の位置付けの悩みを明らかにするために、各教科の内容構成を整理し検討している点は、学習内容の検討の妥当性と信頼性を裏付けるものである。

【結果・知見の新しさ】
体育科の学習内容を「学ぶ対象としての学習内容」を「動き」としてとらえ、過去の学習指導要領の学習内容の不明瞭さを批判的に検討し、指導目標を具体化した学年目標にはなりえても、子どもたちが確実に習得する学習内容にはなりえなかったことを導き出している点は、先行研究を凌駕しており、独創性がある。

【考察および結論の妥当性】
学習内容と正面から向き合った戦後草創期の学習指導要領について､「何を学ぶとその運動ができるようになるのかという学習内容の概念的成立が立ち後れた」と指摘し､「教材に運動を含めるのかどうか、学習内容と運動の関係が明確にならなかったことがその限界」とする論は他に類がなく、新奇性がある。

【研究の当該分野における位置づけ】
スポーツ健康科学関連分野における体育学習の基礎的研究であり、体育科が学習内容を明確に位置付けてこなかったことを明らかにし、教科内容の概念や在り方を今後の課題として指摘していることは、今後、研究の限界も踏まえつつ教科内容構成論の研究をさらに深め、発展させることの意義が見いだせる。